

親愛学園親愛幼稚園 学校評価 報告書

2018年12月21日

親愛幼稚園 園長 井田 泉

I はじめに

2018年8月、現状把握と職員の資質向上を目的に、「親愛幼稚園職員自己評価表」により職員の自己評価を求めた。この評価表は他園の例を参考に本園独自に作成したもので、質問項目の中にはどの園にも共通するもののほか、当園の創立精神に関わるものを含めている。次のような六つの大きな柱を掲げ、計32項目について各自の達成度についてA～Cの段階評価を求めた。

- I 保育者としての姿勢・向上
- II 保育のあり方・子どもとの関わり
- III 職員相互の関わり・園全体
- IV 保護者との関わり
- V 環境
- VI その他

また今回は新しく、以下の各大項目（6項目）について自由記載欄を設けて、各自の振り返りを今後に生かせるようにした。

なお従来から課題としてきたことではあるが、特にこの1年、本園の創立精神であるキリスト教について職員間で理解を深め、それを保育の現場に生かし、また保護者の理解・協力を得ることに努めてきた。具体的な例として、毎月の「しんあいだより」に園長が聖書の物語とメッセージを書くようにした。また毎週1回の園児全体の礼拝、毎月1回の親子礼拝（いずれも礼拝堂）の充実と集中が暖かな空気の中で深まっていることが顕著に感じられ、これは大きな前進であると考えます。

II 学校関係者からの評価

『幼稚園における学校評価ガイドライン』によれば、「学校関係者評価は、保護者、地域住民などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行うもの」とされている。

そこで今回、自己評価を文書にまとめて学校関係者に伝え、これに基づいて評価をいただくこととした。

本園の場合、正式な「委員会」を立ち上げるには至っていない。しかし保護者が保育に触れる機会が多く、保護者からの質問・要望に接する場面もしばしばある。内容的には学校評価に準ずるものが含まれる。適切と思われるものは取り入れるように努力してきた。また従来、親愛学園各理事・監事・評議員に対して「学校評価」を要請してきたが、今回はそれにとどま

らず、卒園児保護者や、園の母体である教会信徒を含む地域住民の評価をお願いし、多数の回答をいただいた。

以上を総合して主な内容を次にまとめる。

＜当園の良いと思われるところ＞

1. 敷地が広く、自然が豊かであり、子どもたちが自然に触れながらのびのびと遊ぶことができる。本来子どもたちが幼児期に体験すべき遊びの環境が整っており、これを十分に活用して保育がなされている。子どもたちの目の輝きが印象的である。
2. 子どもたちへの目が行き届き、こまやかで丁寧な保育がなされている。保育者の表情が明るく生き生きしており、温かさが感じられる。
3. 美しい木造の礼拝堂があり、キリスト教精神に基づいた教育がなされ、祈る心、感謝する気持ち、人への思いやりの心が培われている。
4. キリスト教保育の深まりに対する園長の努力が実を結んできているように感じられる。例えば礼拝のあり方やお話し、またクリスマス準備を含め歌や音楽についての助言・指導は職員にとって有益であり、それが子どもたちに伝わっている。
5. むくもり、手づくりを大切にし、自由遊びを重視し、コーナー保育を早くから取り入れるなど、園児一人ひとりが自分の居場所を見つけ、安心して過ごせるように配慮がなされている。
6. 子どもの個性や発達段階に配慮し、結果だけでなくむしろプロセスを大切に見守る教育がなされている。創造性を育む教育がなされている。
7. 発達遅滞等の子どもを受け入れ、補助教員を付けて丁寧に保育をしており、その結果見違えるほどの成長を目の当たりにすることが多い。
8. 保護者の活動が活発で、園への協力も大きい。
9. 親子礼拝その他の諸行事をとおして、「子どもと親が共に育つ」という園の願いが実現しつつある。
10. 教会信徒の方々から有形・無形の援助を受け、支えられている。
11. 理事会が営利目的ではなく、園児の真の成長を支えようとする教育的姿勢をもって運営されている。
12. 時代状況の変化に対する対応として、年ごとに預かり保育（長期休暇中を含む）、未就園児クラスの工夫と充実を進めている。
13. 園の見学対応が丁寧になされている。また入園説明会&オープンキンダーガーデンなどを年ごとに見直して充実を図っている。またホームページのリニューアルがなされ（スマートフォン対応を含む）て見やすくなった。また若い層に人気の「インスタグラム」による発信も始まり、広報活動が進んだ。
14. 職員が外部研修に参加するだけでなく、園内研修が年に数回実施され、教育の質の向上に努めている。

15. 先輩職員からの新人職員への助言・指導が適切になされ、新人の成長が顕著であると感じられる。職員には意欲と熱意があり、定着率が高い。
16. 教会側の理解と協力により、保育時間中の施設が実施されるようになり、園生活の安全と安心が高まった。

＜当園の改善課題と思われるところ＞

1. 「キリスト教保育」に対する保護者の関心や協力は積み重ねられているが、さらに園からの呼びかけ、発信がなされる必要がある。「親と子が共に育つ幼稚園」としてさらなる深まりを期待したい。
2. 園のセキュリティ向上や業務改善・効率化のためのITCの導入についてあらためて検討し、可能なところから導入してはどうか。
3. 駐車場がなく、交通の便に不利で保護者の負担が大きいと思われる。駐車場を園として一定時間借りるなどの試みが近く開始される予定と聞けるが、無理のない範囲で可能なことが実行されることを期待する。
4. 近年保護者対応の比重が増すなど、職員の負担が過重になっていないかが懸念される。職員体制を見直し、園のより円滑な運営がなされるように、現場における工夫のみならず理事会でも適切な検討と現場への協力がなされることが望まれる。
5. 教育現場と理事会の間で、より率直で建設的なコミュニケーション、意見交換が必要と思われる。
6. 教会と幼稚園の意思疎通や協力がより深まることが期待される。ことに近い将来に予定されている礼拝堂の耐震補強工事については、幼稚園現場の意見や要望を十分踏まえつつ、園児の安全とともに、園の大切な環境を可能なかぎり保ちつつ進められることが願わしい。
7. 新制度への移行に関しては継続的な協議・検討がなされるべきである。時代の変化の中で、園として必ず保ち深めるべきものと、変えていくべきものとが適切に判断され、実行されることを願う。

Ⅲ 第三者評価

本園の第三者評価委員として学校法人京都聖三一学園聖三一幼稚園園長の松崎美幸氏にお願いし、園の概要や特徴について説明するとともに保育現場や環境等に触れていただくとともに、忌憚のない意見をいただいた。松崎美幸先生の評価（2018年12月14日付）は次の通りである。

【総評】

園児・保護者・教職員が神様に守られ、深い愛の内に園生活をおくる調和がとれている。

【良いと評価できるとと思われるところ】

- ・教職員、保護者に対して、当園設立の趣旨や園の方針を伝える取り組みが積極的になされている。新人教員を受け入れるときにも、任命式を通じ当幼稚園が大切にしている精神が良く伝わる様に導かれている。又、保護者に対しては、園長のマリア会（聖書のお話し会）や各行事の意味を紐解くお便りなどで、幼稚園が大切にしている「教育理念を良く伝える」ことが出来ている。
- ・当園の大きな特徴である自然環境を利用し、丈夫な身体と伸びやかな精神を創り出す保育をおこなうことができています。又、文化財である礼拝堂や保育室の落ち着いた雰囲気や空気感は、子どもの心を癒し養い、目に見えない大きな存在を子ども達の人生に伝えることが出来る環境である。
- ・主任、中堅職員が、新任職員を丁寧に指導し、職員全体が一つにまとまって成長しようとする姿が見受けられる。自分のクラスや部署だけでなく、全体を見渡して積極的に業務に取り組むことが出来ている。
- ・ひとり一人の子どもと保護者を大切に、教育理念であるキリスト教保育を大切にしている。他方、新制度への関心も含め、現代の子育て事情に即した運営に取り組もうとしている。ことに誠実な自己評価・学校評価に取り組み、当園の発展に結ばせたいという努力が大きい。

【改善課題と思われるところ】

〈施設整備面について〉

- ・セキュリティについて：教会と一体の施設であるため継続課題となっていたが、このたび教会側の理解・協力を得て保育時間内の施錠が行われるようになったことは、園児、保護者にとっての安全の確保となったことはもちろん、職員の安心にもなり、大きな前進である。今セキュリティ性も考慮しつつ必要適切なセキュリティ対策を検討・実施されることを期待する。

〈職員体制・働き方について〉

- ・正職員とパート職員の働き方、又仕事内容の整理と効率化により、仕事の整合性をはかる。又、役職の仕事内容を精査し、それぞれが十分に機能する事が望まれる。
- ・外部からの講師を呼んでの研修など、全職員での学びを支える事を望む。

〈運営について〉

- ・当園の伝統ある保育理念を十分に大切にしつつ、新制度への移行を含め、今後当園が聖公会の施設として、どのように社会に貢献していくことができるのかを決定して歩み出す事を望む。ことに、保育無償化実施において、大きな変容が見込まれる子育て事情を十分に検討され、安定した運営に繋がる事を期待する。